

柴山清風展

— 没後50年・陶彫にみる清風のこころ —



弥勒菩薩 大善院 蔵

6月1日(土)～7月7日(日)

■ 開館時間…10時～18時

■ 休館日…月曜日

■ 協力…清風の陶房

半田市立博物館

愛知県半田市桐ヶ丘4-209-1 0569-23-7173

柴山清風(1901-1969)は、昭和の常滑を代表する陶彫作家のひとりです。清風は明治34年(1901)常滑に生まれました。当時常滑町では、常滑焼の美術的価値の向上を目的として、常滑美術研究所が設立されました。イタリアの彫刻家ラグーザの教えを受けた内藤陽三、寺内信一らが教鞭をとり、その教え子たちが後に常滑陶器学校の教師となり、後進の指導にあたりました。清風もここで彫刻技法などを学び、卒業後陶器学校助手として勤務し、その後原型師として独立しました。



工房にて完成した聖観音像と



北条神明社の狛犬 常滑市



聖観音 相持院 常滑市



一葉観音 三重県鳥羽市



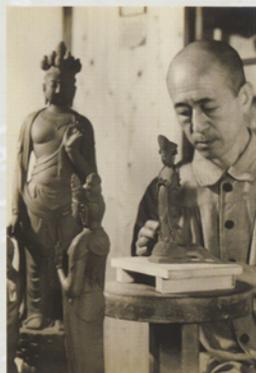
護国観音 本宮山 常滑市

清風は、型作りの焼き物製品の原型をつくる職人仕事を生業としながら、戦争の時代のなかで多くの人の救いとなるべく、千体の観音像を作ることを発願し、生涯にわたって陶器の仏像をつくり続けました。その千体観音は希望者に無償で全国に配布されました。その後、次第に大物陶彫の依頼を受けるようになり、各地に建立されるようになりました。

清風は、人々を慰め寄り添って生きていきたいという心を込めて、仏像などの陶彫作品を制作していました。ほほえみを浮かべたやさしい顔立ちが特徴です。この機会にぜひご覧ください。



千体観音



千体観音制作中の清風

柴山清風 略年表

- 1901年(明治34) 常滑の農家の三男として生まれる
- 1915年(大正4) 常滑町立陶器学校卒業・陶器学校助手として勤務
- 1926年(昭和元) 原型師として独立
- 1934年(昭和9) 「千体観音」「弾除け観音」をつくり始める
- 1938年(昭和13) 一葉観音(鳥羽市)をはじめ大物陶彫を手掛け出す
- 1958年(昭和33) 最後の大物陶彫(相持院の聖観音)を制作
- 1969年(昭和44) 最後の千体観音を制作
- 同年 永眠

半田市立博物館

〒475-0928 愛知県半田市桐ヶ丘4-209-1 TEL 0569-23-7173



アクセス

電車のご案内: 名鉄知多半田駅から徒歩20分/名鉄成岩駅から徒歩15分
 車のご案内: 知多半島道路半田I.C.から5分/半田中央I.C.から10分